

テーマ：観光（実践校）

渡島管内 福島町立福島小学校

本実践のポイント（概要）

- ・ふるさとに対する愛着や誇りを育むため、総合的な学習の時間において、地域人材との連携・協働や、地域の教材を活用し、町の景勝地や観光施設及び農業・漁業などについて調べたり体験したりする活動を通して、観光資源の魅力などを知るとともに、地域のためにできることについて探究的に学習しました。

ふるさと教育・観光教育の実践内容

単元の目標

地域の観光や農業・漁業などの調べ学習や体験学習を通して、他の地域の特長と比較して福島町のことを考えることにより、町の魅力を様々な面から捉え、理解し、観光客や移住された方に町の魅力を伝えるために発信したり行動したりすることができたりするようにする。

取組の様子

(1) 課題の設定

福島町の自然の豊かさを観光客や福島町に移住された方などに発信するために、「福島町の豊かさを伝えたい!」という探究課題を設定しました。



【黒米田植え体験】

(2) 情報の収集

町のWebページなどを活用し、名所や名物などを調査するとともに、福島町地域おこし協力隊と連携し、黒米田植え体験、ブルーベリー収穫体験や岩部クルーズ体験などを通して、観光資源の情報を収集しました。



【岩部クルーズ体験】

(3) 整理・分析

1人1台端末に蓄積した情報を他の地域と比較したり、関連付けたりしながら、福島町のよさについて整理・分析しました。



【小中連携による学習成果発表】

(4) まとめ・表現

学習参観日や小中高連携学習成果発表会において、福島町の魅力について、各グループが作成したスライドを用いて発表することにより、福島町の豊かさや魅力についてより理解を深めることができました。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る指導の工夫

- ・1人1台端末を効果的に活用し課題を解決することができるよう、町の名所調べ、体験活動の記録、スライド資料の作成などを位置付けました。
- ・福島町の観光資源について学びを深めることができるよう、1人1台端末の共同編集機能などを活用し、課題について協議する活動を位置付けました。

実践の振り返り

- ・調べ学習や体験学習を実施したことにより、児童アンケートで、「自分の住んでいる地域の観光や産業についてもっと調べたい」と回答した児童の割合が47%から53%に、「今、住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童の割合が40%から67%に増加するなど、郷土に対する興味関心が高まるとともに、愛着や誇りを育むことができました。
- ・多くの地域人材を活用するとともに、景勝地や観光施設、農業及び漁業などについて系統的に学ぶことができる体制を整えることにより、自分たちの住んでいる町への愛着や誇りをより一層育むことが期待できます。